

令和2年度第3回広島市環境審議会 議事要旨

1 日時

令和3年3月22日（月）午後2時～午後3時40分

2 場所

広島市役所本庁舎14階第7会議室

3 出席委員

西嶋 渉（会長）、田中 貴宏（副会長）、大浜 裕香、狩野 美紀子、高橋 恒治、武市 浩二、鉄村 忠基、内藤 佳奈子、中西 伸介、中山 幸子、林 武広、原 公子、村田 和賀代、森川 宣彦、若松 伸司（以上15名）

4 次第

(1) 開会

(2) 議事

議題 「第3次広島市環境基本計画」の策定について

報告1 第2次広島市環境基本計画に掲げる各施策の方針に関する主な指標等の状況（令和元年度）について

報告2 広島市地球温暖化対策実行計画に掲げる施策の実施状況等（令和元年度）について

(3) 閉会

5 公開・非公開の別

公開

6 傍聴人の人数

0名

7 会議資料

- 令和2年度第3回広島市環境審議会 次第
- 令和2年度第3回広島市環境審議会配席表
- 広島市環境審議会委員名簿
- 第3次広島市環境基本計画（案）
- （別添1）第3次広島市環境基本計画（素案）（市民意見募集時）からの主な修正箇所
- （別添2）第3次広島市環境基本計画（素案）に対する市民意見募集の結果について
- （報告1）第2次広島市環境基本計画に掲げる各施策の方針に関する主な指標等の状況（令和元年度）について
- （報告2）広島市地球温暖化対策実行計画に掲げる施策の実施状況等（令和元年度）について
- （参考資料1）広島市地球温暖化対策実行計画に掲げる施策の実施状況一覧表
- （参考資料2）本市の温室効果ガス排出量（平成29年度確定値及び平成30年度速報値）

8 議事要旨

発言者	発言要旨
西嶋会長	<ul style="list-style-type: none"> 本日の議事は、議題が1件、報告が2件である。議題の「第3次広島市環境基本計画」の策定については、委員の皆様のご了承をいただいた上で、審議会終了後に、私から答申する予定としている。それでは、事務局から説明をお願いする。
環境政策課長	<p>【議題 「第3次広島市環境基本計画」の策定について説明】</p>
西嶋会長	<ul style="list-style-type: none"> 御説明については、前回の審議会での審議結果、市民意見募集の結果、そして事前に委員の皆様にご確認いただき、いただいた御意見を反映させ、本案を作成したという内容であった。御質問、御意見があればお願いします。
林委員	<ul style="list-style-type: none"> 環境の保全と併せて、危機管理の防災の重要性は非常に大きいと思う。本市は土砂災害が多いというのは承知しているが、今後発生が予想されている南海トラフ地震への対策も考えていると理解してよいか。
環境政策課長	<ul style="list-style-type: none"> 危機管理等については、案の26ページの「危機管理等の視点」に記載しているが、御指摘のように、南海トラフ地震が将来的に起こる可能性がある。こうした中、本計画は内容の大綱化を図っていることから、具体的に南海トラフ地震という文言は入れていないが、そうした地震を含む震災、豪雨災害については、案の40ページの「防災・減災のまちづくりの推進」に施策の大きな方向性を示しており、具体的な内容については「広島市地域防災計画」等で記載している。
西嶋会長	<ul style="list-style-type: none"> 震災への対応については、環境基本計画では書き込めるのは一部となってしまうが、市では当然重要な施策として実施しているということである。
村田委員	<ul style="list-style-type: none"> 案の38ページの「自然と調和した美しく品のある都市景観の創出」のところで、広島市は長期的に観光客を呼び込むという方向で、「美しく品のある都市景観の創出」について記載しており、ここと関連した指標で「建築物等景観協議・届出累計件数」というのも記載しているが、この「美しく品のある」という表現がどういった考え方なのかを説明していただきたい。また、景観条例に関して、今後何か考えがあるのか、景観に関する計画があるのかをお尋ねしたい。
環境政策課長	<ul style="list-style-type: none"> 一つ目の「美しく品のある」という表現であるが、市民や事業者等との協議を積み重ねていくことで、共通の理解の上で美しい景観を形成していくという意味での表現としている。 もう一つの景観条例であるが、所管する部署が異なり、詳しいことを申し上げることができないため、確認の上、返答させていただきたい。
西嶋会長	<ul style="list-style-type: none"> 市の都市計画の中に景観の計画があると思うが。
環境保全課長	<ul style="list-style-type: none"> 景観条例については、広島市では平成17年6月の景観法の施行を受け、平成18年に景観条例を策定している。この景観条例の下、景観形成基本計画や基本方針を策定し、美しく品のある都市景観を目指している。 計画等については逐次改正されているが、担当課で適切に実施している。

発言者	発言要旨
西嶋会長	<ul style="list-style-type: none"> この場では村田委員の御質問に答えることは難しいと思うが、所管の部署の方できちんと位置付けていると思うため、また参考にさせていただければと思う。 特に修正意見はなかったため、「第3次広島市環境基本計画（案）」については、案のとおり答申をさせていただく。 昨年の1月から本計画について皆様に御議論いただき、誠に感謝申し上げます。事務局から何かあればお願いします。
環境局長	<ul style="list-style-type: none"> 第3次広島市環境基本計画の策定に当たり、昨年1月30日に当審議会に諮問し、西嶋会長をはじめ、委員の皆様には、お忙しい中、また、コロナ禍の中、数々の貴重な御意見や御提案をいただき、感謝申し上げます。 おかげをもって、本日の審議会の終了後に答申をいただく運びとなり、心から感謝申し上げます。 今後は、いただいた答申を下に、第3次環境基本計画を策定し、本市の環境施策を推進させていただく。
西嶋会長	<ul style="list-style-type: none"> 今後については、答申に沿って計画を策定していただくよう、よろしくお願い申し上げます。 次に、報告事項であるが、まず、「報告1 第2次広島市環境基本計画に掲げる各施策の方針に関する主な指標の状況（令和元年度）について」、事務局から説明をお願いします。
環境政策課長	<p>【報告1 第2次広島市環境基本計画に掲げる各施策の方針に関する主な指標の状況（令和元年度）について説明】</p>
西嶋会長	<ul style="list-style-type: none"> ただいま報告いただいた内容について、御質問、御意見あればお願いします。
中西委員	<ul style="list-style-type: none"> 「3 まとめ」の2つ目の点で、「自然との触れ合いの推進」において、平成30年7月豪雨災害の影響が長引いたことと、年度の終わりの新型コロナウイルス感染症の拡大の影響により、目指すべき方向に向かっていないということであったが、いつ頃から自粛により参加者数等が減少したのか。 これらの指標が目指すべき方向に向かっていないのは、平成30年7月豪雨災害の影響が非常に大きいと感じている。新型コロナウイルス感染症の拡大の影響は年が明けてからで、それまでは忘年会を開催したり、帰省をしていたりと、まだそこまで厳しい状況ではなかった。そのため、新型コロナウイルス感染症の影響は、これから、令和2年から非常に顕著になると考えると、この2つを並列でどちらも同じぐらいの影響ということにすると、今後どのように対策していけばいいのかというところで少し誤りが出ると思っているが、いかがか。
環境政策課長	<ul style="list-style-type: none"> 御指摘のように、平成30年7月豪雨の影響がおそらく大きかったと思っている。新型コロナウイルス感染症の影響については、年度末近くになってから、本市で外出の自粛、研修会や会議の制限等の対策が始まったと思う。 参加者数等言えば、確かに平成30年の豪雨災害で、先ほど申し上げたように森林公園で閉園、あるいは一部休園期間があったことが大きく影響していると思っている。

発言者	発言要旨
中西委員	<ul style="list-style-type: none"> 豪雨災害の復旧というのはもう大分進んでいると思うため、これからは感染防止対策を重点的に行えば、参加者数が元に戻り、こういった施策を推進していけるのではないかと期待している。
環境政策課長	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症については、密を避けるという意味でも屋内よりも屋外ということで、自然との触れ合いということを押し出していけると思っているが、そういったことを踏まえた上で、施設等を所管する部署が対策等を考えていくものと考えている。
西嶋会長	<ul style="list-style-type: none"> 指標のうち、「絶滅のおそれのあるもの」と「環境指標種」の基準年度が平成18年になっていて、現在まだ調査がされていないということであるが、これについては、第3次環境基本計画の中でも「絶滅するおそれのあるもの」の減少と記載されており、いつ再調査が行われるのかを明確にしないと、現計画でも結果がなく、次期計画も結局数字が出ないということになりかねないが、今どのような状況か、決まっている範囲でお答えいただきたい。
環境政策課長	<ul style="list-style-type: none"> 本市における生物調査を行うに当たっては、絶滅のおそれがあるものについても調査していくことになると思うが、これについては、まず平成10年度から11年度に広島市域の調査を行い、その後平成17年の湯来町との合併に伴い、旧湯来町の区域の追加の調査を行い、平成18年に取りまとめ、その後更新していないという状況である。 今回、環境基本計画の中に生物多様性地域戦略を位置付けたところであるため、生物調査等もいずれは行わなければならないものと考えてはいるが、現時点で何年に行うかははっきりとは申し上げられない。
西嶋会長	<ul style="list-style-type: none"> 今回、生物多様性地域戦略を環境基本計画と一緒に策定したということになるが、前回の生物の調査が平成18年と、10年以上は優に経っており、定期的にモニタリングして現状を把握していくことが重要であるため、今後の課題として、せめて次の計画が終わるまでには調査を実施していただき、状況を把握できるようにしていただきたい。 最後の議事であるが、「報告2 広島市環境温暖化対策実行計画に掲げる施策の実施状況（令和元年度）について」、事務局から説明をお願いする。
温暖化対策課長	<p>【報告2 広島市環境温暖化対策実行計画に掲げる施策の実施状況（令和元年度）について説明】</p>
西嶋会長	<ul style="list-style-type: none"> ただいま報告いただいた内容について、御質問、御意見があればお願いする。

発言者	発言要旨
中西委員	<ul style="list-style-type: none"> 説明の中で補足もあったが、「重要業績評価指標の進捗状況」の「家庭生活」のところで、「新築の戸建住宅」の実態が調査できていないと感じている。短期の目標、つまり今年度の目標が50%ということであるため、同じような調査方法だと、同じように一桁という結果になってしまい、全くできていないような見え方になると思う。 最近分譲マンションの折込み広告でも、ZEHを実現し、光熱費が非常に安い、かからないというのを売りにする物件も出てきているため、これから勢いよく増えていくと思うが、家庭用LEDの照明の導入と同じように、どのくらい導入して新築で建てられているのかを実際に把握できるような方法を考えていただきたいと思うが、いかがか。
温暖化対策課長	<ul style="list-style-type: none"> 公的資料がどこまで出るかというところもあるが、どういう集計方法が行えるか、少しお時間をいただき、検討させていただきたい。
田中副会長	<ul style="list-style-type: none"> 中西委員の話に関連して、肌感覚として実際増えている状況なのか。データはなくても構わないが、いかがか。
温暖化対策課長	<ul style="list-style-type: none"> 先ほどの数字は、平均するとそのような数値であるが、大手メーカーの1社当たりで見るとかなり高い割合が出ている。また、新聞報道で大手メーカーではZEHが標準装備というような話もあったため、実際は増えてきているのではないかと思う。
田中副会長	<ul style="list-style-type: none"> 実際にはこの計画策定時に比べて数は増えていそうだと理解してよろしいか。
温暖化対策課長	<ul style="list-style-type: none"> 想定だけでお答えすると問題があるが、増えているように思う。
田中副会長	<ul style="list-style-type: none"> そうすると、先ほど中西委員が言われたように、ある程度実態を確認できる物差しができるといいと思う。

発言者	発言要旨
西嶋会長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 温室効果ガスの排出量は順調に減少しているという説明の中に、家庭の場合特にそうであるが、電力が温室効果ガスの排出に大きく関与するところになってきており、中国電力の発電の燃料が変わってきているため、原単位的に同じ電力を生み出すのに排出される温室効果ガスの量が減っているという説明があったと思う。 ・ 次世代自動車についても、ガソリン車から次世代自動車に替えるというのが正しいことであるというのは、電気を化石燃料由来から再生可能エネルギー由来に替えるというのが前提である。単純にガソリン車から次世代自動車に替えたからといって、現状ではほとんど温室効果ガスを出しながら発電した電気を使っているため、それが増えることが本当に正しいことと言えるのかというのはあると思う。 ・ 要するに、発電方法を化石燃料から再生可能エネルギーに切り替えていくことと、電力の省エネというのは同時に行っていかなければいけないということだと思う。説明いただいた、温室効果ガスの排出量が削減されているというのはこの資料で理解できるが、これにはエネルギーの使用量自体の削減と、発電により発生する温室効果ガスの削減による減少の両方が入っているとと思う。 ・ 例えば、電力会社の多大な努力により温室効果ガスの排出量は減少しているが、省エネはそこまで進んでいないという話だと、少し本末転倒だと感じるがいかがか。また、できればそういったエネルギーの現状はどうかということをこの中で示していただき、全体として、地球温暖化対策と言う形で見えるようにしていただくのがよろしいと思うがいかがか。
温暖化対策課長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 参考資料2の3ページに、エネルギーの使用量を原油換算した場合にどれだけ減っているのかを示している。例えば、家庭部門では、平成29年度は基準年度と比べて0.9%減っており、速報値の平成30年度で言えば、4.7%減っているため、エネルギー使用量も減少していると分析している。 ・ 発電に利用するエネルギーについては分析していない。
西嶋会長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2050年までに排出量実質ゼロという目標は非常に大きいので、両輪で減らしていかなければならないというところで見ると、話の概略としては、一人当たりの温室効果ガス排出量の12.4%の削減の半分は、電力供給者の努力になっているということだと思う。 ・ 非常に大きな長期目標を持っており、国自身がそういう目標を持っているため、それを成し遂げていくためにも、エネルギー使用量を減らしていくことと、発電も再生可能エネルギーに切り替えていくというところで大きく施策を実施していただき、現状把握をしていただきたいと思います。
狩野委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ エコアクション21とISO14000であるが、市の補助金の金額は令和12年度まで変わらないのか。今はもうないかもしれないが。
温暖化対策課長	<ul style="list-style-type: none"> ・ エコアクション21、ISO14000については、補助金は設けておらず、事業者への啓発等を行っている。
西嶋会長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 他に意見はないようなので、以上で本日の会議を終了する。長時間にわたり御審議いただき、感謝申し上げます。